

響けママのメロデー

呉 互いに託児 アンサンブル



グループの結成を呼び掛けた代表の中元さん（左から2人目）。メンバーはお互いの子どもを世話しながら練習している

【呉市・堀口綾子特派員】
学生時代に演奏していた楽器をもう一度やってみたい。そんな思いをかなえている。

短大の音楽科を卒業した代表の中元裕子さん(31)は広島市海岸四丁目。市消防音楽隊に所属、結婚

後、呉シティ・ウィンド・アンサンブルに移ったものの、長男を妊娠し休団した。初めは、自分たちが演奏したいという気持ちだけであったが、「子どもたちが生演奏を聞かせたい」という希望が多かった。幼稚園などからの演奏依頼も相次いでいる。子どもたちが楽器や音楽に興味を持ってくれるよう、演出にも工夫を凝らしている。

練習は月に三回ほど。平日の午前中、公民館の音楽室を借りている。メンバーの子ともたちも一緒に練習に参加。泣く子、遊ぶ子、おもちゃの楽器で演奏する子、みんな自由に過ごしている。「お互いの子を託児しながら楽しめるのがいいところ」と福本さんは語る。

akure.web.fc2.com/

福本恵子さん(35)は同市朝日町。二〇〇七年八月に活動を始めた。昨年末に低音楽器のチューバ奏者が入会。これで吹奏楽の基本楽器がそろった。今後は指揮者もほしいという中元さん。「演奏する方も聴く方も、子どもと一緒に楽しめる場をつくりたい。音の持つ魅力を子育て中のお母さんたちに広めていきたい」と話す。HP